

第670号 展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2005
4・5
月号

平成17年度の東京国立博物館 ●2

特別展 世界遺産・博物館島

ベルリンの至宝展—よみがえる美の聖域— ●4

特別公開 中宮寺 国宝 菩薩半跏像 ●5

巡回展 国宝 その美とところ ●5

平常展見どころ案内 2005年4月・5月

国宝 秋冬山水図 雪舟等楊筆 ●6

特集陳列「こどもの姿」

特集陳列「平成16年度新収品」など ●7-10

はくぶつかん散歩 旧法隆寺宝物館石碑 ●10

教育普及事業のお知らせ

講座・講演会／親と子のギャラリー ●11

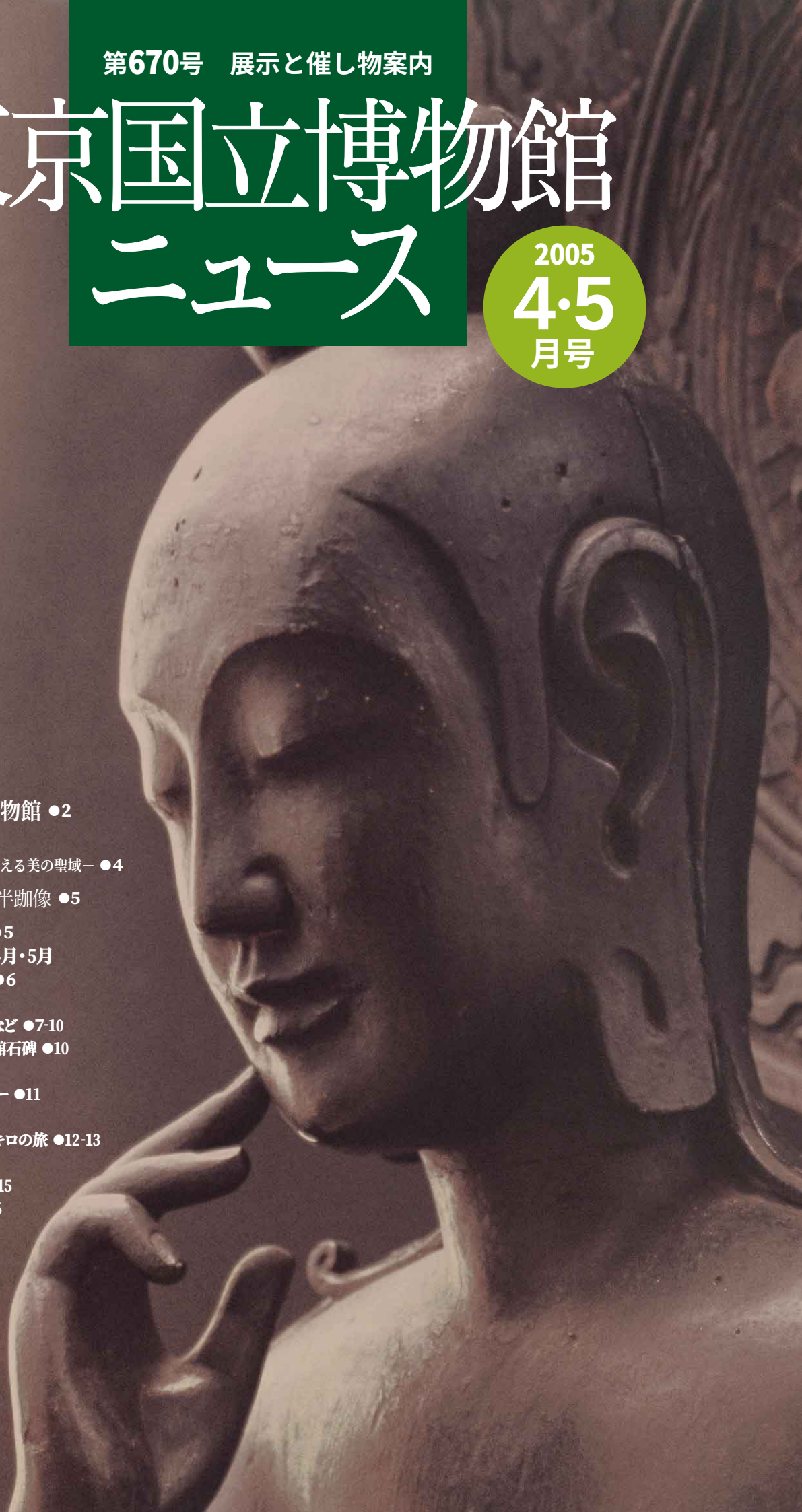
ようこそ！博物館の舞台裏へ

ご本尊、上野へ—盧舎那仏540キロの旅 ●12-13

INFORMATION コンサート ●14

TOPICS／Who's Who in 東博 ●15

2005年4月・5月の展示・催し物 ●16





平成17年度の東京国立博物館

平成17年度を迎えて

東京国立博物館長

国立博物館が、独立行政法人化してから五年目に入りました。この間、当館に、毎年度百万人を超える入館者を迎えることができ、皆様から心からの感謝を申し上げます。

今年は、すでに三月から、愛・地球博(愛知万博)が開かれており、また、日・EU市民交流年、日本におけるドイツ年、日韓友情年であります。「ようこそ! ジャパン」運動に呼応し、外国からも更に多くの方々が来館されるよう努めてまいります。重要文化財に指定されている表慶館(大正天皇の

ご成婚を記念して明治四十二年開館の改修工事を行いますので、なにかとご不自由をかけることがあるかと存じます。この工事にあわせて、法隆寺宝物館を「憩いの空間」として楽しんでいただけますよう動線についても改善してまいりますので、よろしく願います。

九州国立博物館が福岡県太宰府市に設置され、十月十六日から一般公開されます。福岡県と連携して運営していく新しい形態の博物館であります。ご期待ください。

特別展の予定

特別展 世界遺産・博物館島「ベルリンの至宝展—よみがえる美の聖域—」
2005年4月5日(火)～6月12日(日) 平成館 特別展示室第1～4室
ヨーロッパ最大級の規模と質を誇る「ベルリン博物館島」コレクションから、約160点の至宝を世界に先駆けて公開。

特別展 「模写・模造と日本美術—うつす・まなぶ・つたえる—」
2005年7月20日(水)～9月11日(日) 平成館 特別展示室第4室
主に東京国立博物館が所蔵する模写・模造・建築模型で、日本美術史上の名宝を紹介します。
同時開催 親と子のギャラリー「うつす・まなぶ・つたえる」
平成館 特別展示室第3室

興福寺創建1300年記念 **特別公開** 「国宝 仏頭」
2005年9月21日(水)～10月16日(日) 本館特別5室
古代仏教彫刻の代表として教科書にも登場する興福寺の仏頭の特別公開。

特別展 「華麗なる伊万里・雅の京焼」
2005年10月4日(火)～12月4日(日) 表慶館
伊万里と京焼の名品で、華麗で多彩な江戸のやきものの世界をご堪能いただけます。

特別展 「北斎展」
2005年10月25日(火)～12月4日(日) 平成館 特別展示室第1～4室
肉筆画・版画・版本の各分野最高の作品約500点を通じて北斎の画業の全貌を明らかにします。

特別展 「日中書法名品展」(仮称)
2006年1月11日(水)～2月19日(日) 平成館 特別展示室第1～4室
日中両国の書の歴史と美を一望する画期的な展覧会です。

特別公開 「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」
2006年3月14日(火)～4月9日(日) 法隆寺宝物館 第6室
奈良・中宮寺の国宝・天寿国繡帳、法隆寺の太子像を特別公開します。

特別展 開宗1200年記念「最澄と天台の国宝」
2006年3月28日(火)～5月7日(日) 平成館 特別展示室第1～4室
比叡山延暦寺ほか全国の天台宗関係の寺院に伝わる多彩な仏教美術を一堂に展観します。



国宝室の展示予定

3/29(火)～5/8(日)	●秋冬山水図 雪舟等楊筆 室町時代・15世紀末～16世紀初
5/10(火)～6/5(日)	●法華経方便品(竹生島経) 平安時代・11世紀
6/7(火)～7/3(日)	●山水屏風 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵
7/5(火)～7/31(日)	●孔雀明王像 平安時代・12世紀
8/2(火)～8/28(日)	●和歌体十種 平安時代・11世紀
8/30(火)～9/25(日)	●群書治要 卷第二十二 平安時代・11世紀
9/27(火)～10/23(日)	●虚空蔵菩薩像 平安時代・12世紀
10/25(火)～11/20(日)	●観楓図屏風 狩野秀頼筆 室町～安土桃山時代・16世紀
11/22(火)～12/25(日)	●元暦校本万葉集 卷第一、六、十二、十八 平安時代・11世紀
12/27(火)～ 2006/1/29(日)	●松林図屏風 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀
2006/1/31(火)～ 3/12(日)	●法華経(久能寺経) 厳王品・方便品 平安時代・12世紀 静岡・鉄舟寺蔵
2006/3/14(火)～ 4/9(日)	●地獄草紙 鎌倉時代・13世紀



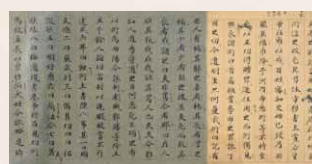
●観楓図屏風



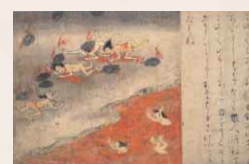
●虚空蔵菩薩像



●松林図屏風



●群書治要 卷第二十二



●地獄草紙

その他の主な国宝作品の展示予定

3/8(火)～6/12(日)	●直刀(号 七星剣) 飛鳥時代・7世紀 大阪・四天王寺蔵 本館13室 [刀剣]
8/2(火)～9/11(日)	●納涼図屏風 久隅守景筆 江戸時代・17世紀 本館7室 [屏風と襖絵]
8/30(火)～10/10(月祝)	●溪陰小築図 室町時代・15世紀 京都・金地院蔵 本館3室 [禅と水墨画]
9/6(火)～12/11(日)	●四天王立像 広目天 平安時代・12世紀 京都・浄瑠璃寺蔵 本館11室 [彫刻]
9/13(火)～12/11(日)	●太刀(号 小龍景光) 鎌倉時代・元享2年(1322) 本館13室 [刀剣]
9/13(火)～12/18(日)	●青磁下蕪瓶 龍泉窯 南宋時代・13世紀 東京・アルカンシエール美術財団蔵 東洋館第5室
11/22(火)～12/25(日)	●餓鬼草紙 平安～鎌倉時代・12世紀 本館3室 [仏教の美術]
12/20(火)～ 2006/3/12(日)	●白糸威鎧 鎌倉時代・14世紀 島根・日御崎神社蔵 本館5室 [武士の装い]
12/23(金祝)～ 2006/3/5(日)	●太刀(名物 三日月宗近) 平安時代・10～11世紀 本館13室 [刀剣]
2006/2/7(火)～ 3/19(日)	●平治物語絵巻(六波羅行幸巻) 鎌倉時代・13世紀 本館3室 [宮廷の美術]
2006/2/7(火)～ 3/19(日)	●竹斎読書図 伝周文筆 室町時代・15世紀 本館3室 [禅と水墨画]



●納涼図屏風



●平治物語絵巻(六波羅行幸巻)



●溪陰小築図
京都・金地院蔵



●青磁下蕪瓶
東京・アルカンシエール
美術財団蔵



●竹斎読書図

世界遺産・博物館島

ベルリンの至宝展

—よみがえる美の聖域—

エジプト美術からドイツロマン主義の名作まで、ヨーロッパ最大級の規模と質を誇るベルリン博物館島のコレクションから、約160点の至宝を公開。世界遺産にも登録された美の殿堂へ、ようこそ。



ティエ王妃像頭部 紀元前一三六〇年頃
王妃にまでほりつめたティエの迫力
ある威圧的な表情に注目

ベルリン博物館島には五つの博物館・美術館があり、エジプト、ギリシャから十九世紀にいたる膨大な作品が所蔵されています。この展覧会にはその中から「聖なるもの」をテーマに、選りすぐりの作品約一六〇点が集められています。

今回の見どころは、「ティエ王妃像頭部」（紀元前一三六〇年頃）など、エジプトのアマルナ時代の優品が多数見られることと、ボッティチェリ、レンブラント、ラファエロ、プッサンなどのヨーロッパ古典・近代絵画の優作が展示されることです。とりわけラファエロの名作「聖母子」が注目されます。また、日本では紹介の機会が少ないドイツ・ロマン派のシンケルやフリードリヒの作品、マネの大作「温室にて」が含まれていることも特記されます。

今回の展示を通じてベルリンの博物館島が誇る「聖なるものの形」の真髄を鑑賞いただければと思います。（金子啓明）



カスパー・ダーフィット・フリードリヒ
孤独な木 一八二〇年
ドイツロマン主義の巨匠フリードリヒは北方の自然特有の静謐で穏やかな雰囲気をもたらえる風景を得意とした



ラファエロ・サンツィオ 聖母子 1508年頃 甘えるキリストをやさしく見つめる聖母マリア。親子の情愛があふれる画面



エドワール・マネ 温室にて 1878-79年頃 マネ晩年の傑作。1896年、軍国主義の時代、フランスへの敵愾心が高まるなか、ベルリン博物館がフランスの作品を正当に評価し購入したものの

■記念講演会

4月16日(土) 13時30分～15時
平成館大講堂
「ヨーロッパ絵画と聖なるもの：
ロマン主義を中心に」

成城大学教授 千足伸行

申込締切：3月29日(火) 必着

5月8日(日) 13時30分～15時
平成館大講堂

「古代オリエントと聖なるもの」

東京国立博物館上席研究員 後藤 健

申込締切：4月19日(火) 必着

事前申込制(定員380名)、聴講無料(ただし「ベルリンの至宝展」の観覧券が必要)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・希望講演会日を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください

*1枚のはがきで、1人申し込み可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります

申込先：〒104-8210

東京都中央区銀座2-16-7 DPR内
「ベルリンの至宝展」講演会係

世界遺産・博物館島

ベルリンの至宝展

—よみがえる美の聖域—

4月5日(火)～6月12日(日)

東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館 朝日新聞社 TBS

学術協力：プロイセン文化財団

ベルリン国立博物館群

後援：外務省 文化庁 ドイツ連邦共和国
大使館 TBSラジオ

特別協賛：新光証券

協賛：大日本印刷 損保ジャパン

協力：日本ペーリンガー・インゲルハイム
日本ベーリング・グループ
スウォッチ・グループ
ジャパングラス・ヒューテ・オリジナル
ルフトハンザドイツ航空 ルフトハンザ・カーゴ

企画協力：東映

観覧料：一般1400円(1300/1200) 大学・高校生
1000円(900/800) 小・中学生無料

* () 内は、前売り/20名以上の団体料金です
* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に
障害者手帳などをご提示ください

お問い合わせ

0570-06-1234 「ベルリンの至宝展」ダイヤル

特別公開

中宮寺 国宝 菩薩半跏像

神秘の微笑みをたたえる飛鳥彫刻の傑作が、伝説の舞台・東博本館特別5室へ



●菩薩半跏像 飛鳥時代・7世紀 奈良・中宮寺蔵
かすかに微笑む美しい表情はアルカイック・スマイルの典型とされる



クスノキの一枚板でできた光背。中心に蓮華、その外側を小さな仏が取り囲み、雲が湧き上がる様子を表している

奈良・斑鳩の中宮寺は、聖徳太子が法隆寺とともに創建した日本最古の尼寺で、千四百年近くの伝統を受け継いでいます。本尊は七世紀後半に造られた国宝 菩薩半跏像で、そのやさしく微妙な彫刻の美は、時代を超えて、現代のわれわれに新鮮な感動を与え、和辻哲郎は『古寺巡礼』で日本芸術の最もすぐれた代表者と称賛しています。

今回の特別公開は、飛鳥彫刻を代表する名作として教科書にも登場し、多くの

日本人に親しまれている国宝 菩薩半跏像を、かつてモナリザやドラクロワ「民衆を導く自由の女神」など世界の名宝を展覧した、伝説的な舞台である東京国立博物館特別5室の中央に迎え、あらゆる方向から、しかも間近にその至高の美を鑑賞していただく絶好の機会を提供するものです。

ため息がもれるようなやさしい微笑みの表情、ゆるやかに構えた両腕と力強く交差する両脚、柔軟な体躯のふくらみとすっと伸ばした背筋の凛々しさ、写実と意匠性が一体となった衣の重なりなどに、古代美術とは思えない究められたラインとフォルムの美が示されています。それはお像を前にしてはじめて実感され、古代飛鳥との出会いがさらに確かなものとなるでしょう。

(松浦正昭)



後姿もきれい

特別公開 中宮寺 国宝 菩薩半跏像
3月8日(火)~4月17日(日)
東京国立博物館 本館特別5室

主催：東京国立博物館 中宮寺
展示照明協力：ヤマギワ(株)、
カラーキネティクス・ジャパン(株)
観覧料：一般600円(400)
大学・高校生300円(200)
小・中学生無料

*()内は20名以上の団体料金です
*障害者とその介護者1名は無料です。
入館の際に 障害者手帳などをご提示ください



●舟橋詩絵硯箱
本阿弥光悦作

高山市合併記念 東京国立博物館巡回展
国宝 その美とこころ
4月8日(金)~5月8日(日)
飛騨・世界生活文化センター
ミュージアム温故知新

主催：東京国立博物館 高山市
飛騨・世界生活文化センター
*観覧無料

■記念講演会

4月17日(日) 13時30分~ 飛騨・世界生活文化センター
「武家の装いと教養」当館上席研究員 原田一敏
*聴講無料(当日受付)

暮らしを彩る絵画や調度、能や茶の美術など、武家の美術を中心に東京国立博物館所蔵の名品を公開します

国宝 その美とこころ

高山市合併記念 東京国立博物館巡回展

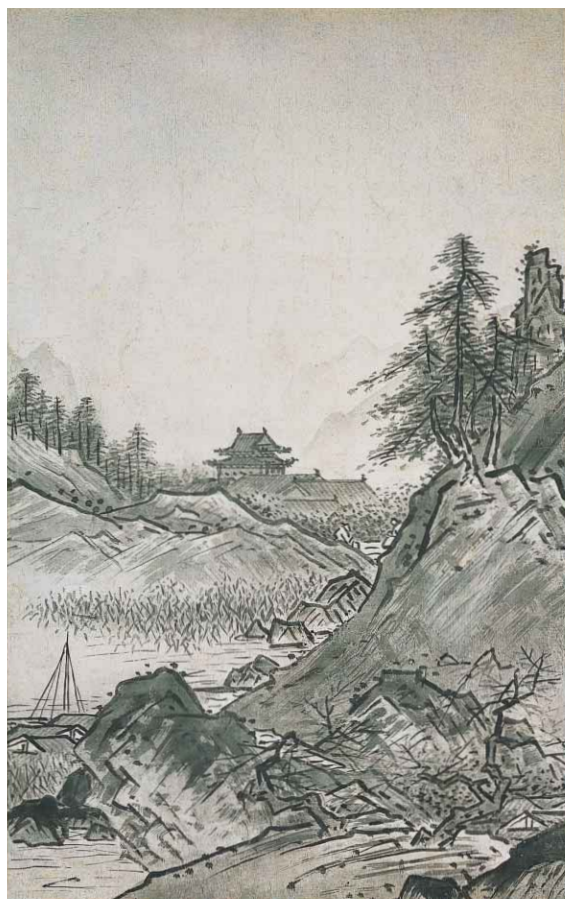
東京国立博物館では、その所蔵品を各地の博物館や資料館で公開する巡回展を、昭和三十七年(一九六二)から続けております。今年は岐阜県の高山市で開催し、「国宝その美とこころ」と題して、武家の美術を中心に構成いたしました。高山市は大名茶人として有名な金森宗和の生まれた地です。その宗和にちなんで、大名の暮らしのなかでうまれた絵画や武具、また武士の教養としての能や茶にかかわる装束や道具など、五十四件を展示いたします。織田信勝が所持していた吉房太刀と本阿弥光悦作舟橋詩絵硯箱の国宝二件をはじめとして、金森宗和ゆかりの宗和作竹尺八花入、野々村仁清の色絵月梅図茶壺、同じく色絵波に三日月図茶碗、宗和所持響銅建水などが出品されます。このほか狩野永徳筆許由巢父図屏風、石山切といった絵画・書跡にも優品が含まれております。

(原田一敏)

小さな画面にひろがるダイナミシク空間

国宝 秋冬山水図 雪舟等楊筆

3月29日(火)～5月8日(日) 本館2室 国書室



●秋冬山水図 雪舟等楊筆 室町時代・15世紀末～16世紀初
緊密なモチーフの配置や力強い筆致は、雪舟の代表作と呼ぶにふさわしい

雪舟(せっしゅう)「二四二〇一五〇五」といって、「慧可断臂図」(愛知・斉年寺)が昨年、国宝に指定されました。また平成十四年(二〇〇二)に当館で開催された特別展「雪舟」の終了後まもなく本格修理が始まった国宝「山水長巻(山口・毛利博物館)は、昨春無事に所蔵館に納められたと聞きます。平成十八年にも雪舟展(山口県立美術館)が企画されており、雪舟没後五百年をめぐるさまざまな動きは今後もつづくことでしょう。

さて「秋冬山水図」は、雪舟の代表作として、また当館の収蔵品の代表格として古くから喧伝される名品です。力強いタッチと、ダイナミシクな構成を示す印象的な山水画ですが、実物を見ると思

いのほか小さいことに驚かされます。おそらく書斎のような小さな空間で鑑賞されることを前提に描いたものでしょう。向かって右が秋景、左が冬景ですが、どちらも画面の下端から見えてゆくと、近いものから遠いものへ、モチーフを順にたどってゆくことができ、小画面にもかかわらず雪舟は広大な奥深い空間を表そうとしていることがわかります。その空間構成には、以前の山水画には見られない堅固さ、理知的な構築性が強く感じられます。また個々のモチーフを描き出す線を見てゆくと、岩に見られるさつと引かれた短く力強い線、雪山の輪郭を描くひよろひよろした線、

カサカサした線、しっとりした線など、いろいろな味わいを見せます。では雪舟はいつ頃この作品を描いたのでしょうか。この絵と同様に雪舟の山水画の基本的な描き方、すなわち中国南宋の画家・夏珪のスタイルで描かれた「山水長巻」は文明十八年(一四八六)六十七歳の作で、ふ

つう「秋冬山水図」は「山水長巻」よりあとの晩年期の作と考えられています。雪舟が中国滞在中の四十九歳頃に描いた「四季山水図」のうちの一幅(春)も3月23日から4月24日まで本館3室にて展示されますので、併せてご覧ください。

(救仁郷秀明)



◎四季山水図(春) 雪舟等楊筆
本館3室「禅と水墨画」にて3月23日(水)～4月24日(日)に展示

本館特別1室

そのかわいさに、顔がほころぶ
特集陳列「こどもの姿」

4月18日(火)～5月29日(日)

本館特別3室では「こわい顔 特集
をしますが(本誌8ページ参照、こ
こではこどもの愛らしい姿でほとと
和んでいただきます。こどもを
おんぶする女性を表した埴輪は、親
子の情愛が今も昔も変わらぬこと
を示しているようです。最近は見
ることが少なくなりましたが、おんぶ
こどもにとって無上の幸せではない

でしょうか。母に背負われたこども
の安心しきった顔は、私たちにも幸
せを分けてくれます。親にとっては
泣いているこどもは少し憎らしくな
ることもありますが、そんなこども
を表現した人形には作り手の子供を

慈しむ気持ちが感じられます。

こどもはかわいい。なんといつて
もかわいい。何をしててもかわいい。
こどもを表現した作品でどうぞその
かわいさを堪能してください。

(丸山士郎)



埴輪 子を背負う女
栃木県真岡市鶏塚古墳出土 古墳時代・6世紀
古代のお母さんも赤ちゃんをおんぶ



バリアン童子像
キステル・シャイベ作
(ドイツ・アルスバッハ)
19世紀
あらあら茶碗を割っちゃった

本館特別2室・特別4室

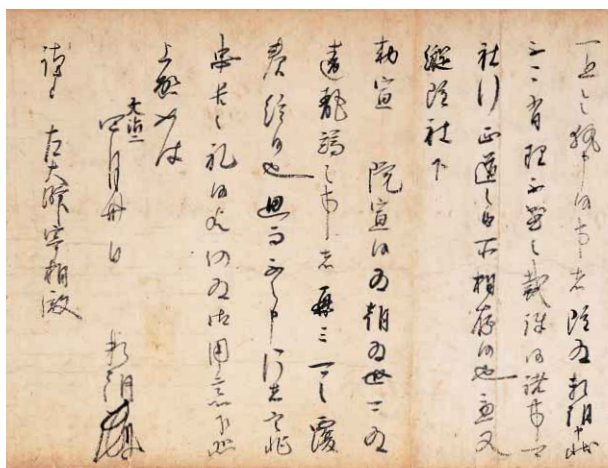
東博の新しいたからもの

特集陳列「平成16年度新収品」

5月24日(火)～6月19日(日)

優れた文化財を収集し保管するこ
とは、博物館の大切な役目です。そ
もそも東京国立博物館は、十一万件
を超える収蔵品を誇る日本最古の博
物館ですが、日本と東洋の考古・美
術を体系的に展示するためには、現
在の収蔵品だけでは決して十分では
ありません。当館では毎年購入や篤
志家からの寄贈によって収蔵品を
より充実させています。今回は平成

十六年度に新たに当館の収
蔵品となった文化財から、
源頼朝書状(重要文化財)、
宣房本三十六歌仙絵巻断簡
(清原元輔、「椅子により
て」北蓮城筆(中御門宜子
氏・内田益子氏・内藤政武
氏・柳原従光氏・内藤政忠
氏寄贈)などの作品を紹
介します。



◎源頼朝書状(部分) 平安時代・12世紀
左大臣藤原兼光あての書状。花押のみ頼朝の自筆。
吾妻鏡にも収められている歴史上非常に重要な文書

本館特別2室・特別4室

新しい国宝と重文

特集陳列「平成17年新指定
国宝・重要文化財」

4月26日(火)～5月8日(日)

重要文化財とは、日本にある建造物・絵画・彫刻・
工芸品・書跡・典籍・古文書などの有形文化財のうち、
文化史的・学術的に特に重要なものとして国(文部科
学大臣)が指定したものを指します。また、重要文化
財のなかでも特に優れたもの、学術的に価値の高いも
のなどが国宝に指定されます。平成十七年(二〇〇五)
に新しく国宝・重要文化財に指定された文化財をい
ちはやく披露いたします。この貴重な機会をお見逃
しなく。

(主催：文化庁、東京国立博物館)

怒りと憎悪の表情

特集陳列「こわい顔」

4月12日(火)～5月22日(日)

こわい顔には大きく分けて二種類あります。不動明王や四天王のように怒っている顔と、鬼のようにもともと恐ろしい顔です。怒りにも、親がこどもを叱るように愛情から発するものと、愚かな行為や敵に対する憎悪をともなうものがあります。そうした表情が、日本の仏像や仮面などのように表されたかをご覧くださいます。

“こわい顔”の怖さは時代によっ



能面 顰(しかみ) 江戸時代・17～18世紀
眉を吊り上げ、牙を剥く烈しい形相。目や歯が金色なのは人間ではなく、鬼神であることをあらわす

て異なります。平安時代後期は、目だけで怒っていて恐ろしくありません。鎌倉時代は目が血走り、顔の筋肉も隆々として迫力があります。能面の般若の怒りの表情には、品

があり、哀しさが透けてみえます。明王、四天王などの仏像、能狂言面、神楽面、鬼の面などあわせて二十点ほどで構成します。

(浅見龍介)

本館14室 工芸

端午の節句のお祝いに

特集陳列「兜のながれ—古墳から江戸まで—」

3月29日(火)～7月3日(日)



◎紅糸威星兜
南北朝時代・14世紀 文化庁蔵
兜正面に利剣と鍬形の立物を打った星兜

桃の節句も過ぎて、新緑の季節を迎えます。五月の端午の節句にちなんで、古墳時代から江戸時代までのさまざまな兜を展示します。
平安時代の武士は、鉄板を星と呼ばれる鋳で留めて鉢を形作った星兜を用いました。さらに古い古墳出土の衝角付冑には、星兜と形式的な繋がり想像させるものがあります。
室町時代になると鉢の表面の筋の目立った筋兜が主流となり、桃山から江戸時代には紙などの張懸で各種の形をあらわした当世兜が数多く製作されました。長大な後立を付けた一の谷形や置手拭形などの当世兜、兜の代表的な立物である初期の鍬形や鉢の模造なども含めてご覧いただきます。

(池田 宏)

「日本の博物館」シリーズスタート!

特集陳列「森鷗外と帝室博物館」

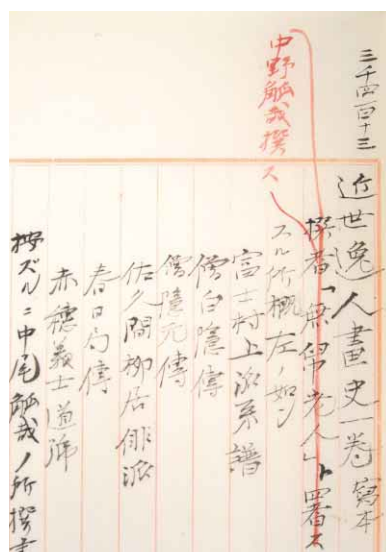
3月29日(火)～5月8日(日)

5月10日(火)～6月19日(日)

本館16室 歴史資料は、平成十七年度は「日本の博物館」というシリーズで展示を行います。最初の特集は「森鷗外と帝室博物館」です。大正六年二月、帝室博物館総長となった作家の森鷗外は、館蔵資料の目録刊行を意図し、一冊ごとの丁寧な解題と、著者に関する考証を執筆しました。同十一年七月、現職のままこの世を去りますが、その解題や考証は鷗外の広く深い学識を伝えています。この他、正倉院宝物の調査など、森鷗外が博物館に残した多大な功績をたどります。

園、不忍池などの様子が知られる絵図や錦絵などをご紹介します。多くの人々に愛されてきた上野の山の移り変わりをご覧いただきたいと思ひます。

(高橋裕次)



鷗外遺稿博物館書目解題(部分)
森鷗外著 大正6年～11年写
鷗外直筆の館蔵資料目録

上野公園地全景
楊泉延足画 明治22年(1889)
花盛りの上野の山は今も昔も大賑わい

本館2室 国宝室

平安の華麗な装飾経

法華経方便品(竹生島経)

5月10日(火)～6月5日(日)

琵琶湖の北岸近くに浮かぶ竹生島に伝来したところから「竹生島経」とよばれています。素紙に金泥の界を引き、金銀泥で蝶・鳥・宝相華・霊芝雲のほかに麻や草花などの文様を大きく描いた料紙に『法華経』を書写したものです。現存するのは、竹生島にある宝蔵寺蔵の「序品」一帖(折本仕立)と東京国立博物館蔵のこの「方便品」の一巻のみです。

下絵の文様と穏やかで整然とした和様の書風から、伝称筆者源俊房(一〇三五～一二二二)より溯って十一世紀のはじめの遺品と推定されます。

(鳥谷弘幸)



●法華経方便品(竹生島経)(部分) 平安時代・11世紀
和様を代表する装飾経

本館4室 茶の美術

「行灯ケース」の楽しみ 黒楽茶碗 銘 尼寺 長次郎

3月23日(火)～7月3日(日)



黒楽茶碗 銘 尼寺
長次郎作 安土桃
山時代・16世紀
腰が張り、胴部には
少しくぼみが、人の
手に自然に添って
くるよう意図され
たかたち

その形から「行灯ケース」と呼ばれている直方体の展示ケースは、作品をぐるりと周囲からご覧いただくことができるので、その時にいちばん見ていただきたい作品を展示します。今回は「黒楽茶碗 銘 尼寺」をじっくりとご覧いただきましょう。千利休の指導のもと長次郎によって作られたという楽茶碗。そこには使い手の求めるものが活かされています。そうして生まれてきた尼寺の、掌に吸い込まれてくるような形を感じていただけたら幸いです。

(伊藤嘉章)

本館7室 屏風と襖絵

建礼門院の物語をしのぶ 大原御幸図屏風

3月29日(火)～5月8日(日)



大原御幸図屏風(部分) 長谷川久蔵筆 安土桃山時代・16世紀
かつての華やかな暮らしからは、想像できない建礼門院の姿。法皇一行も、画面をみる私たちも袖を濡らす

「平家物語」に取材した作品。平清盛の娘であり、安徳天皇の母である建礼門院は、義経率いる源氏に壇ノ浦で滅ぼされた平家一門の菩提を弔うため、大原(今京都市の麓)に庵を結び住みました。その建礼門院を後白河法皇がお忍びで訪ねる場面です。画面の中ほどの山道を花籠を手に下りてくるのが建礼門院。ほととぎすが鳴く空に金箔の雲が緩やかに浮かび、満開の桜や藤花や草木が細やかに描き込まれています。それらの繊細な表現が、建礼門院の儂げな境遇を強調しています。

(松嶋雅人)

本館8室 暮らしの調度

季節をうつす意匠 比良山蒔絵硯箱など

3月15日(火)～6月19日(日)



比良山蒔絵硯箱
塩見政誠作
江戸時代・18世紀
塩見政誠(1646～1719)は研出蒔絵の名手として知られた蒔絵師

この展示室では、安土桃山から江戸時代にかけて、人々の身の回りを飾ってきたさまざまな調度類を並べています。季節に合わせて、今回は桜や蒲公英など春に因んだ意匠の品々を集めました。写真は硯箱の蓋の部分で、精細な研出蒔絵により、山おろしで有名な比良山と落花漂う湖面を行く舟が描かれています。このほか、桜と若松の文様を器表全面に表した豪華な婚礼調度や、満開の桜樹が立ち並ぶ吉野山の図柄の書棚などをご覧いただき、往時の人々の暮らしに思いを馳せていただければ幸いです。

(竹内奈美子)

本館9室 能と歌舞伎

昔男の恋心…能面・能装束―能「杜若」―

4月26日(火)～7月3日(日)



唐織 紅萌黄段流水杜若模様
江戸時代・18世紀 舞台の雲間
気を盛り上げてくれそうな杜若
模様の唐織

能「杜若」では、「伊勢物語」の主人公・在原業平は、歌舞の菩薩の化現となって登場します。彼が東下りの旅の途中、八橋で詠った「からころも きつ づなれにし つましあれば はるばるきぬる た びをしぞおもふ」にある唐衣は、業平の恋人・高子のものです。能舞台では、歌舞の菩薩であり、杜若の精である業平が、唐衣のかわりに美しい長絹に着替えて物遣、舞を舞います。装束付の中に男性が自分の愛する女性の姿に成り代わるといふ、倒錯した愛情表現が見られます。

(小山弓弥)

日本最古の仮面 伎楽面

4月26日(火)～5月29日(日)

伎楽は、飛鳥時代に百済から伝わった仮面劇です。主に寺院の法会の際に演じられたようですが、少し下品な内容も含んだためか、平安時代にはすたれはじめて、鎌倉時代に滅んでしまいました。詳しい内容はわかりませんが、今残る仮面には、王や美女、美女に懸想する野獣のような男、酔っ払ったペルシア系の王とその従者などの面があり、わかりやすい演劇の形をとりながら仏教のありがたさを示したもののようです。



◎伎楽面 崑崙 飛鳥時代・7世紀
美人の呉女にいいよって、力士にこらしめられる役

当館は法隆寺に伝来した三千一面を所蔵しており、特にクスノキ製の十九面は飛鳥時代に作られた、日本に残る最古の仮面です。頭にすっぽりとかぶる大きさで迫力があり、表情も多彩。飛鳥時代のおおらかな雰囲気ひたることのできる貴重な機会です。
(丸山十郎)

南海から運ばれた腕輪 スイジガイ製銅

5月29日(日)まで



スイジガイ製銅 静岡県磐田市松林山古墳出土 古墳時代・4世紀
南海産のスイジガイの真中をくりぬいてつくった腕輪

スイジガイは南西諸島などの南海地域に多く産する巻貝の一種です。貝製の腕輪は、弥生時代に南海産のものを加工して盛んにつくられましたが、古墳時代になると碧玉製の腕輪へと姿をかえていきます。これは数少ないスイジガイを用いた腕輪であり、突起と体部に線刻が施され、全体に赤い顔料がのこっているのがわかります。埋葬施設である竪穴式石室の東北隅に置かれていたもので、死者の腕に装着されていたわけではありませんが、辟邪などの呪術の意味を込めていたのかもしれない。
(日高 慎)

春の庭園開放

本館北側の庭園を公開します。エドヒガンザクラ、オオシマザクラ、ギョイコウザクラなど10種類もの桜が次々と開花する庭園は、一年でもっとも美しい花の園になります。天候により開放中止となる場合もありますので、どうぞお天気のよい日を選んでお出かけください。

3月12日(土)～

4月17日(日)

10時～16時



『MUSEUM』594号

(平成17年2月15日発行)の掲載論文

①「東京国立博物館所蔵紀寺跡

(小山麻生 出土軒瓦

②「東京国立博物館所蔵瓦の紹介

森 郁夫(帝塚山大学教授

③「宝城坊本堂十二神将像考」

山本 勉(当館教育普及室長

④「東京国立博物館における環境保全計画

―所蔵文化財の恒久的保存のために―

神庭信幸(当館保存修復課長

表紙解説「竹梅図屏風」 尾形光琳筆

小野真由美(当館別品室研究員

＊購読のお問い合わせは

当館ミュージアムショップ

TEL 03-3822-1008 まで



浅野館長の夢

旧法隆寺宝物館石碑

浅野長武という方をご存知ですか。え、ご存知ない? そうかもしれませんね。この方は国立博物館になってから三代目の館長で、昭和二十六年(一九五二)から四十四年までその職にありましたから、東博の基礎を築いた名館長といつていいかもしれません。浅野館長の就任以来の夢は法隆寺からの献納宝物を一堂にする陳列館を建築することであったとお書きになっています。その夢が実現するのが昭和三十七年。表慶館の裏手に戦後第一号の建造物として建てられました。正倉院を模した高床建築で北、中、南の三つの陳列室がありました。限られた日だけではありましたがそれでも献納宝物を一堂に観ることができ、それはすてきな場所でありました。宝物館にはいる階段の脇には遠慮がちな小さな碑がありました。几帳面な篆書で表面に「法隆寺宝物館、その裏には、昭和三十七年十一月竣工 浅野長武書」とあります。浅野館長が東博に残された唯一の碑文です。

この碑が今は宝物館の右手にあるコンクリート堀の北側オリーブの木の下にひっそりとおかれています。いざれどなたかによってどこか別の位置に据え直されるまで、この碑はここで静かに博物館を見ておられるのでしょうか。この碑のかつてのすがたを想い浮かべながら、博物館の散歩を終えることにしましょう。
(上野仁哉)



浅野長武書の法隆寺宝物館碑と校倉(重文)

はくぶかん散歩 13 (最終回)

教育普及事業のお知らせ

2005年9月までの講座・講演会

■月例講演会

毎月1回、当館の展示・研究員の研究テーマ等に関連した講演会を開催します。

4月23日(土) 13時30分～15時

「考古の見方・楽しみ方」平常展室研究員 日高 慎

5月14日(土) 13時30分～15時

国際博物館の日記念

「ミュージアムの建築—法隆寺宝物館、MoMAその他の設計をとおして—」
建築家 谷口吉生

6月25日(土) 13時30分～15時

「写経料紙の荘厳について」保存修復室長 高橋裕次

7月16日(土) 13時30分～15時

「デザインから見る切手の世界」

当館客員研究員・切手の博物館学芸員 田辺龍太

8月20日(土) 13時30分～15時

「仏像の起源とその展開—中央アジアから中国へ—」

当館名誉館員 杉山二郎

9月3日(土) 13時30分～15時

「本阿弥光悦一人と芸術—」当館名誉館員 林屋晴三

会場：平成館大講堂 定員：380名 聴講無料(ただし入館料が必要です)

■テーマ別講演会

共通テーマで企画された、専門性のある連続講演会です。

「東国の彫刻史」全4回

第1回 6月4日(土) 13時30分～15時

「古代東国の造像」図書・映像サービス室長 岩佐光晴

第2回 6月18日(土) 13時30分～15時

「鎌倉幕府御家人の造像」清泉女子大学教授 山本 勉

第3回 7月9日(土) 13時30分～15時

「鎌倉新仏教の諸宗派」

東京文化財研究所 美術部主任研究官 津田徹英

第4回 7月30日(土) 13時30分～15時

「鎌倉大仏と宋風の仏像」出版企画室長 浅見龍介

会場：平成館大講堂 定員：380名(先着順)

聴講無料(ただし入館料が必要です)

※ほかに国際博物館の日記念講演会として、東京国立博物館文学講演会「池波正太郎」が企画されています。本誌14ページ参照



親子のギャラリー

親子で楽しめるわかりやすい展示です。
ワークショップもあります。

1 親子のギャラリー うつつ・まなぶ・つたえる

会場：平成館特別第3室

会期：2005年7月20日(水)～9月11日(日)

特別展「模写・模造と日本美術」と同時開催です。
同じテーマを別の視点から、わかりやすく解説。
日本美術の知らなかった一面をお見せします。

2 親子のギャラリー 鏡のうらおもて

会場：平成館企画展示室

会期：2005年11月8日(火)～12月18日(日)

中国から日本に伝えられた鏡は不思議な工芸品。
呪術に用いられたり、神仏が宿ったり…。裏側は文
様(デザイン)の宝庫です。鏡の魅力、裏も表もお
見せします。

3 親子のギャラリー 博物館ってどんなところ？ たてもの編

会場：平成館企画展示室

会期：2006年3月7日(火)～4月23日(日)

「博物館ってどんなところ？」シリーズ第三弾は博物
館の建築や展示空間に注目します。それぞれのた
てものには、由来や工夫があります。開かずの扉の
内側もご紹介いたします。



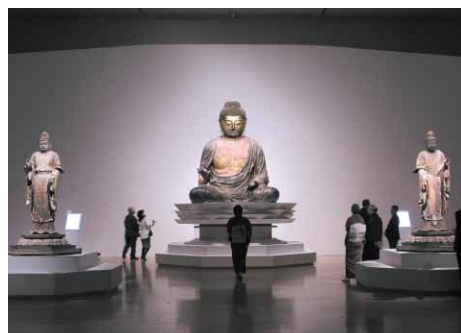
「仏像のひみつ」ワークショップ(博
物館探検：仏像もちものさがし)
(2005年2月)と親子のギャラリー
「文字・もじ・モジ」ワークショップ
(とうほう書道道場)(2004年8月)

博物館で 総合学習、生涯学習

当館では、児童・生徒のグル
ープ学習を、ボランティアと協力
して受け入れています。館内ガ
イドをはじめとして、生徒の興味
がある分野にあわせたガイド、根
付作りやお茶会などの体験学
習、博物館の仕事の体験など、
楽しいプログラムを用意してい
ます。事前にお問い合わせくだ
さい(TEL03-3822-1111当館教育
普及室まで)。また、一般の来館
者を対象にした、さまざまなガ
イドやツアーも行っています。スケ
ジュールの詳細は本誌16ページ
(裏表紙)のカレンダーをご覧ください。
皆様の参加をお待ちして
います。



当館ボランティアによる館内ガイド



④「唐招提寺展」盧舎那仏像の展示風景

ようこそ！
博物館の舞台裏へ



第4回

「ご」本尊 上野へ

「盧舎那仏 五四〇キロの旅」

三月六日に無事閉幕した「唐招提寺展」のため、八世紀に像が造られて以来はじめてお寺を出た「ご本尊 盧舎那仏」。この歴史的な事業を可能にしたのはさまざまな人々の経験を生かした技と努力。そして最新の科学技術です。奈良から上野へ、「ご本尊」の長い長い旅の道の手をこ紹介します。

「案内 図書・映像サービス室長
(彫刻担当研究員)
岩佐 光晴



未知の構造と、高さへの挑戦

唐招提寺の本尊・盧舎那仏のように、大きく、しかもデリケートな造りの仏像を奈良・東京という長い距離を運ぶことは、誰も経験したことがなく、正直不安もありました。とにかく、この歴史的な輸送を安全に完了するためにできる限りの努力をしようという思いでした。

輸送がそれほど難しいいちばんの理由は、脱活乾漆造というこの像の構造にあります。中が空洞のいわば「張り子」状態で、表面と中の構造が一体でないことから、輸送中にそれ



④ 梱包に使う竹の加工。手作業で最適な薄さに削る

ぞれがどのように動き、どのような負荷がかかるか予測が極めて困難なのです。作品の状態を事前に調査し、梱包や輸送方法について検討を重ねるうち、最も重要なことは震動をいかにおさえるかであるという結論に至りました。

その対策の一つが、アイソレータと呼ばれる振動衝撃吸収装置です。これは、ワイヤーロープを使って輸送中の振動・衝撃を安全な範囲内に吸収する免震装置で、宇宙ロケットにコンピュータなど精密機器を搭載する際にも使用されるものです。最善の梱包に加え、より安全な輸送環境を作るという考えに基づき、この装置の導入が東博の保存修復担当より提案されました。

輸送を困難にしたもう一つの大きな理由は高さでした。通常この大きさの像を運ぶ時は横に寝かせて運びますが、今回は中が空洞ですので坐ったままの状態では運ばなければなりません。道路交通法により各種道路を走行できる車の高さは四・五メートルに規制されています。像自体が高さ約三メートル、梱包後の総高は四メートル近く

ります。そのため、輸送には、地表からの高さがわずかに五十センチという低床でもエア・サスペンションを備えたトレーラーを使用することになりました。一方、このような巨大なものが入るコンテナなどはありません。そのため、緩衝材等で表面を養生した鉄板に梱包した像を載せて木枠に固定、この外側に調湿ペニヤを貼った鉄の壁をめぐらせて二重の箱を作り、さらに防水シートなどで覆ってトレーラーに積載することになりました。

しかし、すべてが初めてのことで、万全を期して本番に近い形での走行実験をすることになりました。

角材でリハーサル

走行実験は二〇〇四年の十月半ばに実施されました。実験の目的は、輸送中に受ける振動と衝撃、温湿度の変化が適切な範囲で収まるかどうかを計測して、像の梱包仕様についての最終方針を固めることでした。もちろん「ご本尊」そのもので実験するわけにはいきませんので、像と同じ



④ 枠に取り付けた振動計

四六〇キロの角材を積んだトレーラーが、唐招提寺から栗東インターチェンジまでを往復しました。

内梱包以外のコンテナ部分は、実際の輸送と同仕様のものを五日間かけて準備し、実験にのぞみました。実験当日は快晴。振動計、温湿度データーロガーなどの測定機器を内枠と外枠に合計六個取り付けたコンテナをトレーラーに積み込み、トレーラーにも測定機器を取り付けた後、朝九時に出発。順調に走行して予定より早く四時間程度で戻ってきました。

この実験で得た振動計の測定値から、荷台上の衝撃はアイソレータによって効果的に吸収されることが確認できました。また輸送中の温湿度変化についても非常に安定していることがわかりました。また、実際に走ってみてはじめて、コンテナにかぶせたビニールシートの下から風

が入って膨らんでしまうなどの問題点や、道路状況も確認できました。さらに、輸送用の箱を組み立てる作業工程を細かく確認、予行演習ができたことも大きな成果でした。ポルトの穴一つまで細かい寸法を合わせると設計図通りにいかない部分を改善することもできました。

いよいよ出発—上野へ

十一月末、唐招提寺境内にある修理所で像の梱包がはじまりました。開始前には法要が営まれ、作業の無事を祈りました。



④ 走行実験に出発するトレーラー

梱包の達人が紹介 盧舎那仏の包み方

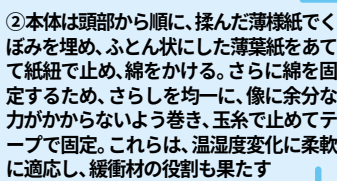


列品室 岩淵建夫

- 材 料：薄葉紙(和紙)、木綿わた、さらし、玉糸(麻紐)、竹ひご
- 所要日数：約1週間



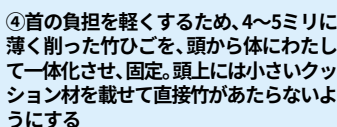
①まずは腕から。揉んで柔らかくした薄葉紙を指の間に詰めてくるみ、薄葉紙、綿、さらしでくるんで玉糸で止める



②本体は頭部から順に、揉んだ薄葉紙でくぼみを埋め、ふとん状にした薄葉紙をあてて紙紐で止め、綿をかける。さらに綿を固定するため、さらしを均一に、像に余分な力がかからないよう巻き、玉糸で止めてテープで固定。これらは、温湿度変化に柔軟に適応し、緩衝材の役割も果たす



③顔および体をさらにウレタンで覆い、胸と膝に木綿製の特製ネットをかけて梱包材をなじませる



④首の負担を軽くするため、4〜5ミリに薄く削った竹ひごを、頭から体にわたして一体化させ、固定。頭上には小さいクッション材を載せて直接竹があたらないようにする

これで像の内梱包は完了。外枠を取り付ける



⑤梱包した像をほんの少しずつ浮かせて、像の下に、緩衝材を貼った鉄板を差し入れる。鉄板に鉄枠の最下部を固定し、そこに吊り上げ用の金具を取り付け、クレーンで吊って移動。アイソレーターを組み込んだ鉄枠の底部分に固定する



⑥木枠を組んで、そこに像を固定する。ひざの部分は、像にあわせて型取りしたウレタンを何段にも積んで固定。肩の部分も型取りしたウレタンで左右から挟むように押さえ、木枠と像が一体となるように固定する

鉄枠をストレッチフィルムなどで包み、断熱のアルミシートで覆った後、最後に雨よけのシートをかぶせてきっちりと固定し

完成!

⑦木枠の外側に鉄の枠を組む。内側に調湿ペニヤを貼り、合わせ目にはゴムを貼って密閉

作業手順としては、まず左手を抜いて別梱包し、本体は右手で頭と体の順に梱包します。像全体をできるだけ凹凸が少なく単純な一かたまりの形となるように包みます。首の部分は漆の層が薄く特に弱いので、頭と体を竹で固定して一体化させ、移動中に頭と体が別々に揺れて大きな負担がかからないようにしました。また、表面の漆に亀裂が入った箇所もあったため、できる限り柔らかく、幾層にも梱包資材を重ねて像の表面にかかる力が分散するようにしました。国内輸送では通常ここまでしませんが、今回は表面の保護も十分に考えて、海外へ輸送する場合にそれ以上の厳重な梱包を行いました。

また、像の梱包に使用する資材はすべてこの像にあわせたサイズのものに新たに作製。竹の資材一本まで手作りです。今回の梱包は、美術輸送の経験豊富なスタッフによって、あらゆる面でよく考え抜かれた仕様だと思えます。例えば、梱包の済んだお像は緩衝材を貼った鉄板に載せ、返却まで像本体に力を加えることなく、鉄板ごと移動しました。この鉄板にコンテナとなる鉄枠を取り付けるのですが、その枠の四隅に穴をあけ、クレーンで吊るす時の金具や、博物館に着いてからの移動を楽にするためのローラーが付けられるようにしました。

二〇〇四年十二月九日、朝四時半集合。移動当日の作業は、まだ暗いうちに開始されました。七時半、長老ほか唐招提寺のお坊さんに見送られて上野までの長い旅がはじまりました。私は他の作品を載せた美術品専用輸送車で追走しましたが、全行程を通して安定した走行でした。ただ、都内に入ってから一般道を走ったので、大丈夫とわかってはいっても歩道橋が見えると無事にぐぐるのか心配になったり、曲がり角では曲がりきるまでひやひやしたり……。朝七時の出発から実に約十二時間後、夜七時過ぎ、すっかり日が暮れてからの東博到着でした。

到着の時は、館長以下博物館のスタッフ、共催者の皆さん、また早朝の作業後新幹線で移動した輸送会社のみんなが迎えにきました。ゆっくりと平成館内に運び込み、その後数日間、環境に慣らすためコンテナごと保管。十日後に展示室へと運び、解梱、到着二週間後に像を台座に載せ、作業用の足場を外した時にやっと少しほっとできました。今後これ以上に困難な輸送はないと思いますが、今回の記録やデータをもとに一つのノウハウを作っていければよいと思います。ご本尊には、金堂が修理を終え、再びお目見えするまでゆっくりと旅の疲れを癒していただきたいと思います。

(構成 鬼頭智美)

出発当日



お寺の駐車場で輸送用トレーラーに積み込む



④ 盧舎那仏を輸送するトレーラーの運転という大役を果たした一人、狩野さん

INFORMATION

◆コンサートのお知らせ

文化庁芸術祭大賞受賞記念

バロック音楽のタベ

～中野振一郎の真髓！C.P.E.バッハの世界～

(2005年日・EU市民交流年記念イベント)

日 時 4月16日(土) 19時開演
会 場 東京国立博物館 表慶館
出 演 中野振一郎(チェンバロ)
主 催 東京国立博物館 日本テレマン協会
曲 目 C.P.E.バッハ：プロイセン・ソナタ
ハ短調Wq.48-4 ほか
料 金 5000円(平常展観覧券付) 150席 全席自由

東京藝術大学連携事業 ピアノ名曲コンサート

日 時 5月27日(金)
(昼の部)14時開演 (夜の部)18時開演
会 場 東京国立博物館 本館特別5室
出 演 羽石道代
主 催 東京国立博物館、東京藝術大学大学院音楽研究科
料 金 無料(ただし入館料が必要)

サマーイン クラリネットコンサート

日 時 6月13日(月) 19時開演 ※18時15分正門開門
場 所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出 演 デービッド・S.グレスラム(クラリネット)
桃子グレスラム(ピアノ)、金田賢一(朗読)
主 催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット
曲 目 スカルラッティ：ソナタK.144 カンタービレ ほか
料 金 5000円(平常展観覧券付) 300席 全席自由

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売り場でチケット販売

受 付 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

●電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270

受 付 月曜日～金曜日の9時30分～17時(祝日は除く)

※チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えでお渡しします

引換時間 開館日の9時30分～閉館30分前(月曜休館)

※各イベント詳細は、東京国立博物館イベント担当(TEL 03-3821-9270)または、
当館ホームページでご確認ください

※お車のご来館はご遠慮ください

◆国際博物館の日記念講演会

5月14日(土) 13時30分～15時

「ミュージアムの建築

一法隆寺宝物館、MoMAその他の設計をとおして」
谷口吉生(建築家)

5月15日(日) 14時～16時10分

東京国立博物館文学講演会 池波正太郎

「池波正太郎・男のリズム」

縄田一男(文芸評論家)

「書斎の池波正太郎」

鶴松房治(池波正太郎文庫指導員)

会 場 東京国立博物館 平成館大講堂

聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

380席(当日受付先着順)

◆招待券プレゼント

世界遺産・博物館島「ベルリンの至宝展」の招待券をペアで10名の方に抽選でプレゼントします。ご希望の方は、はがきに、住所・氏名(ふりがな)・男女・年齢・職業ならびに、この号でいちばん面白かった企画をご記入の上、下記までお送りください。締切は4月30日。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712

台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室

ベルリン展招待券係宛



◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効

賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

特 典

- 特別展の特別内覧会にご招待
- 国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。

*お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部
賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2005年2月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社
ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
NHK 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様

維持会員

三菱電機
ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様

小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京菓匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禎次郎 様
飯内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
久田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様

株式会社 光彩工藝 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様
櫛田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星 埜 由尚 様
関口 大志 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藝本 様
飯岡 雄一 様

(ほか10名3社、順不同)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会

口座番号 00160-6-406616

金額 1万円

*振替用紙には職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート

口座番号 00120-3-665737

金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申込には2週間かかります

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担でお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料は申込者のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締め切りは5月10日です

東京国立博物館利用案内

開館時間: 9時30分~17時、4月~12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日~8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*敬老の日(2005年9月19日)は平常展のみ無料

平成十四年(二〇〇二)夏、東京国立博物館では、昭和の書の発展に、書家・学者として大きく寄与した西川寧(せい)の生誕百年を記念して、その代表作約八十点を集め、その足跡を回顧する名品展を開催しました。その展覧会を、この度中国国家博物館で開催いたします。西川寧氏が青年時代に留学し、終生にわたって憧れた中国北京で開催されることは、きわめて意義深いものがあります。西川寧氏は、著名な書法家・西川春洞(はるどう)の三男。幼少より書を学び、のちに清時代の趙之謙(ちょうしけん)に傾倒しました。昭和十三年(一九三八)から十五年(一九四〇)にかけては、外務省の特別研究員として北京に留学し、中国古代の文学・書法を研究し、帰国後は造形的表現を追及する独自の創作

活動を続けました。芸術院賞受賞、文化勲章受章など、昭和の書壇を代表する書家として活躍されるほか、多くの著作もあり、書道史と書の理論の両面にわたる実証的研究をされました。また、慶応義塾大学・東京教育大学(現筑波大学)で教鞭をとるなど、現代書壇の発展にも大きく貢献しています。

この展覧会は平成十五年(二〇〇三)に開催予定でしたが、SARSの流行により延期されていたものです。

西川寧展

3月26日(土)~5月8日(日)

北京・中国国家博物館

主催: 東京国立博物館
中国国家博物館
謙慎書道会

(島谷弘幸)



「黙然而笑」 西川寧筆 生き生きとした筆意、文字の配置と余白との響きに注目



Who's Who in 東博 (最終回)

「ほんもの」がみたくなるような本づくり

出版企画室 立道恵子

東博が二〇周年を迎えた年に所蔵品などの写真を貸与する係として働き始めました。さまざまな作品写真の手配を通じて、日本美術のいろいろな分野に接することができました。学生時代の専門は絵画史でしたが、ある日ふと展示室で刀身を見て、その純粋な美しさのところに、絵画や書などとは違う、意味などを全く考えずにただそのかたちや地鉄、刃文の美しさを見ることで癒されたのです。以来、刀剣について勉強しています。

現在は、展覧会図録など館の刊行物の編集を担当しています。出版物を通して作品を観ることの楽しさが伝えられたいと思います。高校生まで地方で育ち、本物の美術品と接する機会がなく、友人宅で画集を見たのが美術との出会いでした。作品そのものを移動して展示することには限界がありますが、本ならどんなに遠いところでも東博のコレクションを楽しんでくれます。本でまず興味を持って、「これの本物が見たい」と思ってもらえればうれしいです。

2005年4月

東京国立博物館 4月・5月の展示・催し物

2005年5月

1 FRI	夜間開館	14:30
2 SAT	※1記念講演会「斑鳩御所中宮寺の歴史と文化」13:30 時間延長(18:00まで)	14:30 平成館大講堂
3 SUN	時間延長(18:00まで)	14:30
4 MON	休館日	
5 TUE	ベルリンの至宝展 列品解説「雪舟の山水画」14:00	本館3室
6 WED	14:00 14:30 15:00	
7 THU	14:00 14:30	
8 FRI	夜間開館	14:30
9 SAT	時間延長(18:00まで)	14:00 15:00 14:30
10 SUN	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30
11 MON	休館日	
12 TUE	列品解説「中宮寺 国宝 菩薩半跏像について」14:00	本館特別5室
13 WED	14:00 14:30 15:00	
14 THU	14:00 14:30	
15 FRI	夜間開館	14:30
16 SAT	※2記念講演会「ヨーロッパ絵画と聖なるもの」13:30 平成館大講堂 ※3バロック音楽の夕べ 19:00 表慶館 時間延長(18:00まで) 11:00、13:00、14:00 14:00 14:30 15:00	
17 SUN	「中宮寺 国宝 菩薩半跏像」庭園開放 最終日 時間延長(18:00まで)	14:00 14:30
18 MON	休館日	
19 TUE	列品解説「新羅の動物土偶」14:00	東洋館第10室
20 WED	14:30 15:00	
21 THU	14:00 14:30	
22 FRI	夜間開館	14:30
23 SAT	月例講演会「考古の見方・楽しみ方」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで)	14:00 15:00 14:30
24 SUN	時間延長(18:00まで)	14:30
25 MON	休館日	
26 TUE	列品解説「イラク・ハトラ出土のヘラクレス像について」14:00	東洋館第3室
27 WED	14:00 14:30 15:00	
28 THU	14:00 14:30	
29 FRI	夜間開館	14:30
30 SAT	時間延長(18:00まで)	14:00 15:00

14:00 = ボランティアによる本館ハイライトツアー ……場所: 本館2階
 14:30 = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド ……場所: 本館2階
 15:00 = ボランティアによる陶磁エリアガイド ……場所: 本館1階
 15:30 = ボランティアによる彫刻ガイド ……場所: 本館1階
 16:00 = ボランティアによる樹木ツアー ……場所: 前庭内
 16:30 = ボランティアによる考古展示室ガイド ……場所: 平成館考古展示室
 17:00 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……場所: 法隆寺宝物館
 17:30 = ボランティアによる応挙館茶会 ……場所: 応挙館
 (参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布)

1 SUN	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30
2 MON		
3 TUE	時間延長(18:00まで)	
4 WED	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30 15:00
5 THU	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30
6 FRI	夜間開館	14:30
7 SAT	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30 15:00
8 SUN	※4記念講演会「古代オリエントと聖なるもの」13:30 時間延長(18:00まで)	14:00 14:30 平成館大講堂
9 MON	休館日	
10 TUE	列品解説「周時代の青銅製楽器」14:00	東洋館第5室
11 WED	14:00 14:30 15:00	
12 THU	14:00 14:30	
13 FRI	夜間開館	14:30
14 SAT	国際博物館の日記念講演会「ミュージアムの建築」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで)	14:00 14:30 15:00
15 SUN	国際博物館の日記念文学講演会「池波正太郎」14:00 平成館大講堂 時間延長(18:00まで)	11:00、13:00、14:00 14:00 14:30
16 MON	休館日	
17 TUE	列品解説「特集陳列 こわい顔」14:00	本館特別3室
18 WED	14:30 15:00	
19 THU	14:00 14:30	
20 FRI	夜間開館	14:30
21 SAT	時間延長(18:00まで)	14:00 15:00
22 SUN	時間延長(18:00まで)	14:30
23 MON	休館日	
24 TUE	列品解説「展示では見えない仏像の話」14:00	本館11室
25 WED	14:00 14:30 15:00	
26 THU	14:00 14:30	
27 FRI	ピアノ名曲コンサート 14:00、18:00 夜間開館	14:30 本館特別5室
28 SAT	時間延長(18:00まで)	14:00 15:00
29 SUN	時間延長(18:00まで)	14:00 14:30
30 MON	休館日	
31 TUE	列品解説「人面付壺形土器について」14:00	平成館考古展示室

6/12まで

※1,2,4は事前申し込み制です。1は申し込み締め切りました。
 2,4については、本誌内をご覧ください
 ※3は有料イベントです。チケットのお求め等詳細は本誌14ページをご覧ください
 ※上記の予定は予告なく変更になることがあります
 当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください

〈京都国立博物館〉 4月12日(火)~5月15日(日)
特別展覧会「曾我蕭白-無頼という愉悅-」

〈奈良国立博物館〉 3月23日(水)~5月8日(日)
特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」